

1. 医事職員構成

2009年度の医事室は事務職員4名（1名は10月中旬から産休）、委託職員（ニチイ学館）11名の体制で業務を行った。前年度3月から電子カルテ導入の事前準備のため派遣職員1名（ニチイ学館）を増員した。

2. 外来の動き

2009年4月から脳外科専門医師2名が常勤となり脳外科の診療が本格的にスタートした。しかし、内科は常勤医師が退職したため、従来からの呼吸器外来に加え一般内科に週1回、糖尿病外来に月に2回、済生会熊本病院医師での診療体制となった。

2009年度は新型インフルエンザへの対応が特筆すべき出来事であった。まず2月に国で新型インフルエンザ対策行動計画が策定された。5月には保健所での患者取り扱いが始まり、その後特定の医療機関に発熱外来が設置された。10月にワクチン接種実施要領が出され、市町村での説明会が11月中旬に開催された。当院は11月18日（水）にワクチンの予防接種を開始した。今回は接種対象者が疾患や年齢で区分され、該当者ごとに開始の時期が決められていた。予約制で実施したが、一旦予約を受付、その後患者さんの疾患を主治医に確認する作業が必要であり対応に多くの時間をとられた。ワクチン接種の際にも1アンプルが20人分単位の薬剤の入荷等があり、接種の場所と時間を特定して実施した。11月から翌年3月まで、計587名（職員・委託162名含）の新型ワクチン接種を行った。予約及び実施に関して診療部、看護部や薬局の協力を得て問題なく実施することができた。また、インフルエンザの患者さんへの対応として発熱外来を10月から設置した。設置前には院内に発熱外来特設の掲示をし、患者さんへの周知を図った。開始後は玄関前に看板を設置し、入口をMRI棟側に特定した。MRI棟の一面に診察室を作り、受付・会計も職員が出向いて対応し、一般の患者さんとの接触を極力避けた。

3. 病棟の動き

2009年4月に病室の変更があった。2階の201号室の4床を3床へ変更、また3階の倉庫を個室（1人部屋）316号室とし、従来の316号室を317号室へ名称変更した。この変更により個室（1人部屋）が8床から9床へ増加した。

届出としては一般病棟及び亜急性期病床において、病室変更としての施設基準の変更申請が必要であった。亜急性期の病床数は2009年度中に変更なく30床を維持した。病床利用率は一般病棟79.2%、亜急性期病床86.7%、回復期リハ病棟79.7%となり全体では81.0%となり、昨年度比+0.8%であった。最高は3月の87.8%、最低は10月の72.6%となった。

4. 電子カルテの導入

2009年3月から処方、検査等のオーダーリング開始と同時に新医事システムへの移行を終え、4月からレセプト電送を開始した。電子カルテは全職種参加のうえ6月に外来リハーサルを2回、病棟リハーサルを1回実施した後、7月から予定通りに本稼働を開始した。電子カルテ開始と同時に放射線検査をフィルムレスとし、処置・注射等のオーダーを開始しフルオーダー体制となった。開始後システム停止や故障など大きなトラブルなく運用できている。

外来診療については電子カルテ開始後も履歴参照のため紙カルテを診察室へ提出した。半年をめやすに紙カルテから完

全移行の予定とした。ただ一部の診療科について紙カルテでの診療が続き業務は複雑となった。

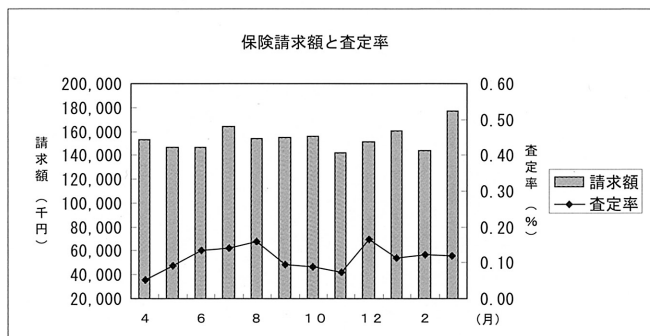
5. 2009年度取得施設基準

呼吸器リハビリテーション料については、医師の経験の要件を満たすことができたので施設基準を（Ⅱ）から（Ⅰ）へ更新した。

項目	承認日	備考
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	2009年4月1日	

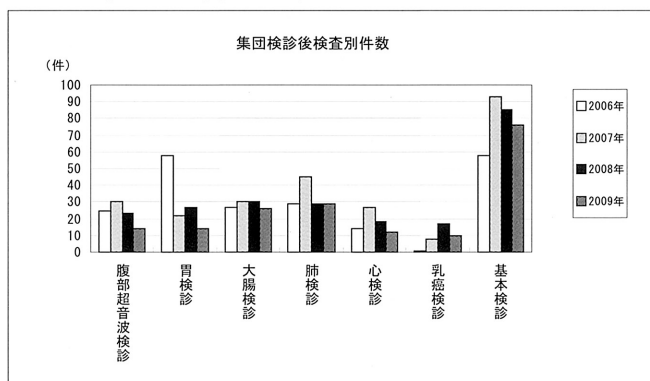
6. 保険請求と査定

保険請求額は入院外来合わせて本年は昨年の約4%の増となった。今年度の傾向としては禁忌薬の査定が目だって多くなり、審査の電子化の影響と推察された。査定率は平均では0.11%となり昨年に比べやや高くなった。



7. 三角町集団検診後の精密検査の実施

今年度の精密検査の受診者数は昨年より48名減少し181名であった。全般的に減少傾向にある。下のグラフは過去4年間の精密検査の実績である。



8. その他

2月に介護サービス情報公開の調査を受けた。
3月24日2010年度の診療報酬改訂の説明会を全職員に向け開催した。